

つくば市記者会 御中

発信日：令和3年（2021年）6月9日（水）

発信元：つくば市 政策イノベーション部

■取材依頼 ■周知依頼 □募集告知 □その他

茨城県立並木中等教育学校の
生徒会選挙でインターネット投票を実施します



つくば市は、茨城県立並木中等教育学校と共同し、今年度の生徒会選挙の一部にインターネット投票の仕組みを導入します。

令和3年7月7日に実施される生徒会選挙の際、4年生（高校1年生に相当）はスマートフォンからインターネット投票を行うほか、以下のとおり、①主権者教育、②デジタルID・ブロックチェーンの活用、③通信・5Gに関して事前に学習します。

市では、「つくばスーパーサイエンスシティ構想」の中で、公職選挙におけるインターネット投票の導入を目指していますが、若年層の政治参加を促すため、学校教育においても積極的に活用していきます。

- 【日時等】**
- (1) 事前学習・ワークショップ等
専門家からの講義25分、グループワーク20分、発表10分
① 6月16日（水）主権者教育
② 6月23日（水）デジタルID・ブロックチェーンの活用
③ 6月25日（金）通信・5G
※各日とも14：40～15：35に実施
- (2) 生徒会選挙投票日
7月7日（水）（※時間調整中）

※内容の詳細については別添資料をご確認ください。
※いずれもご取材いただけます

【場 所】 茨城県立並木中等教育学校

【主 催】 つくば市、茨城県立並木中等教育学校

【協 力】 株式会社VOTE FOR、xID株式会社、KDDI株式会社、筑波大学、
文部科学省、株式会社LayerX

茨城県立並木中等教育学校の令和3年度生徒会選挙におけるインターネット投票の実施について（1）

➤ 各生徒に貸与するスマホにデジタルIDアプリをインストール。アプリを通じた個人認証（本人確認）を行ったうえで、**秘密投票、改ざん防止を保証した投票**を行う。

➤ インターネット投票の仕組みや意義の理解のため、選挙の前に、

① 主権者教育

② デジタルID

③ ブロックチェーン技術

④ 通信・5G

についての**授業・ワークショップ**を開催。

➤ 2021年度の新中学3年生で実施した場合、2024年に予定されているつくば市長・市議会選挙で初めて選挙権を得る世代が**インターネット投票ネイティブ**になることを想定。

➤ 同じシステムを活用することで、例えばコロナ禍での修学旅行の是非を問うアンケート等、**児童生徒の意思表示**や、**いじめの相談・通報**なども匿名で行うことが可能。

※茨城県立並木中等教育学校
児童・生徒数 約900名
2012年度～スーパーサイエンスハイスクール指定校
全生徒が2年間、「探究」科目を履修



茨城県立並木中等教育学校の令和3年度生徒会選挙における インターネット投票の実施について（2）

【関係者】

主催：つくば市、茨城県立並木中等教育学校

協力：文部科学省（全般）、VOTE FOR社（システム提供、ワークショップ）、xID社（システム提供、ワークショップ）、LayerX社（ワークショップ）、KDDI社（端末提供、ワークショップ）、筑波大学（共同研究、学生派遣）

【ワークショップ】 ※各回55分間（講演25分、グループワーク20分、発表10分（予定））

6月16日（水） 6時間目
14:40～15:35
① **主権者教育**
(VOTE FOR社・つくば市)

6月23日（水） 6時間目
14:40～15:35
② **デジタルID・ブロックチェーンの活用**
(xID社・LayerX社)

6月25日（金） 6時間目
14:40～15:35
③ **通信・5G**
(KDDI社)

【選挙当日：7月7日（水）】

- 当日の流れ：候補者演説（14:15～15:15）→投票（15:15～15:35）（昨年度の実績ベースでの目安）
- インターネット投票の対象者：4年生（約160名） ※その他の学年は従来通り紙で投票

つくばスーパーサイエンスシティ構想

～科学で新たな選択肢を、人々に多様な幸せを～



社会全体が一人ひとりを包み込み、支え合う「誰一人取り残さない」SDGsの精神の下で、世界最高峰の科学技術を結集し、デジタル、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていく。

これにより、住民参加を基盤とし、住民と住民、住民と行政のつながりを深化しつつ、出口の見えない社会課題の克服や革新的な暮らしやすさを実現する住民中心のスーパーシティを目指す。



市長
五十嵐 立青



全体統括者（アーキテクト）
筑波大学 鈴木健嗣 教授

実装に向けた取組

デジタル インフラ整備	マイナンバー・マイナンバーカード利用拡大、高齢者向けスマホ・タブレット配布、スマホアドバイザー配置
研究成果の 社会実装と エコシステム	つくばの研究機関（約150機関）から生み出される研究成果を、実証実験を経て社会実装
広範かつ大胆な 規制・制度改革	公職選挙法、住民基本台帳法、道路構造令、道路交通法、道路運送法、薬機法、行政機関個人情報保護法、WTO政府調達協定等
民間事業者等の コミットメント	つくばスマートシティ協議会（産学公47機関加盟）と連携、データ連携基盤の構築
住民等の 意向の把握	住民投票、市長キャラバン、オープンハウス、有識者会議、パブリックコメント、住民ワークショップ等
住民等の 個人情報の 適切な取扱い	つくば市個人情報保護条例等、職員データ活用研修、市独自の倫理原則

先端的サービスの実装

行政	先端的行政サービス（つくばトラスト） ①インターネット投票、②多言語ポータルアプリ、③行政手続DX、④行政ビッグデータの活用
移動	先端的移動サービス（つくばモビリティ） ①周辺部コミュニティ・モビリティの導入、②中心部複合MaaSの導入
物流	先端的物流サービス（つくばポーター） ①自動配送ロボットやドローン等による買物の利便性向上、②移動スーパーの高度化
医療・介護	先端的医療・介護サービス（つくばヘルスケア） ①医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸、②救急医療高度化、③医薬・介護・服薬の連携、④個人への健康関連データの還元
防犯・防災・インフラ	先端的防犯・防災・インフラサービス（つくばレジリエンス） ①インフラ・エネルギー・マネジメント、②避難所・被災状況の可視化、③地域防犯情報ネットワーク

目指す社会



- ① 移動の自由と健康な自立を人々へ提供し、安心して暮らせるために都市と郊外の二極化を是正する。
- ② 人生の各段階を支える行政サービスを人々へ提供し、信頼ある行政が支える多文化共生の社会を実現する。
- ③ 安全で持続可能な都市空間を人々へ提供し、活力ある都市力を向上させる。



先端的行政サービス（つくばトラス①）

『オンラインでいつでもどこからでも選挙の投票を』

つくば市が抱える問題

- 投票所までの移動手段がない。公共交通で市内全域を網羅できず、自家用車がないと移動が困難である。
- 仕事や学校があり投票に行く時間がない。
- 住民が地理的、時間的な制約を受けており、結果として住民の政治参加が妨げられている。

目指す未来と取組内容

- スマートフォンやタブレットから本人確認、秘密投票が確保されたインターネット投票を実現
- 投票における時間的、距離的負担を大きく軽減でき、移動が困難な人・忙しい人でも投票可能となることで投票率向上が期待
- 接触の機会が減り、感染症リスクが低減
- 投票所受付を最小化、投票結果集計が迅速化でき、中長期的には職員の負担軽減とコストが削減

行政分野①：インターネット投票

【従来の投票】



- | | |
|-----------------------|--------------------|
| ✓ 時間の制約（投票所の開設時間） | ✓ 財政負担（場所と人の確保） |
| ✓ 地理の制約（決められた投票所） | ✓ 人的負担（立会・残業・深夜労働） |
| ✓ 移動の制約（投票所内外のバリアフリー） | |

【インターネット投票】

制約と負担を軽減し、いつでもどこからでも投票可能に



1. スマートフォン/タブレットにつくばアプリをインストール（初回のみ）
2. マイナンバーカードで公的個人認証（初回のみ）
3. つくばアプリで投票ページを参照し、顔認証とパスコードで本人確認
4. 候補者を選択し、投票
5. 投票結果は暗号化され、投票者情報と切り離されて集計



- ※ 3年間にわたる行政が行う事業の審査でのインターネット投票システムの実証実績
- ※ 基本構想の住民意向の確認にインターネット投票を実施
- ※ 2021年度市内公立学校での生徒会選挙での活用

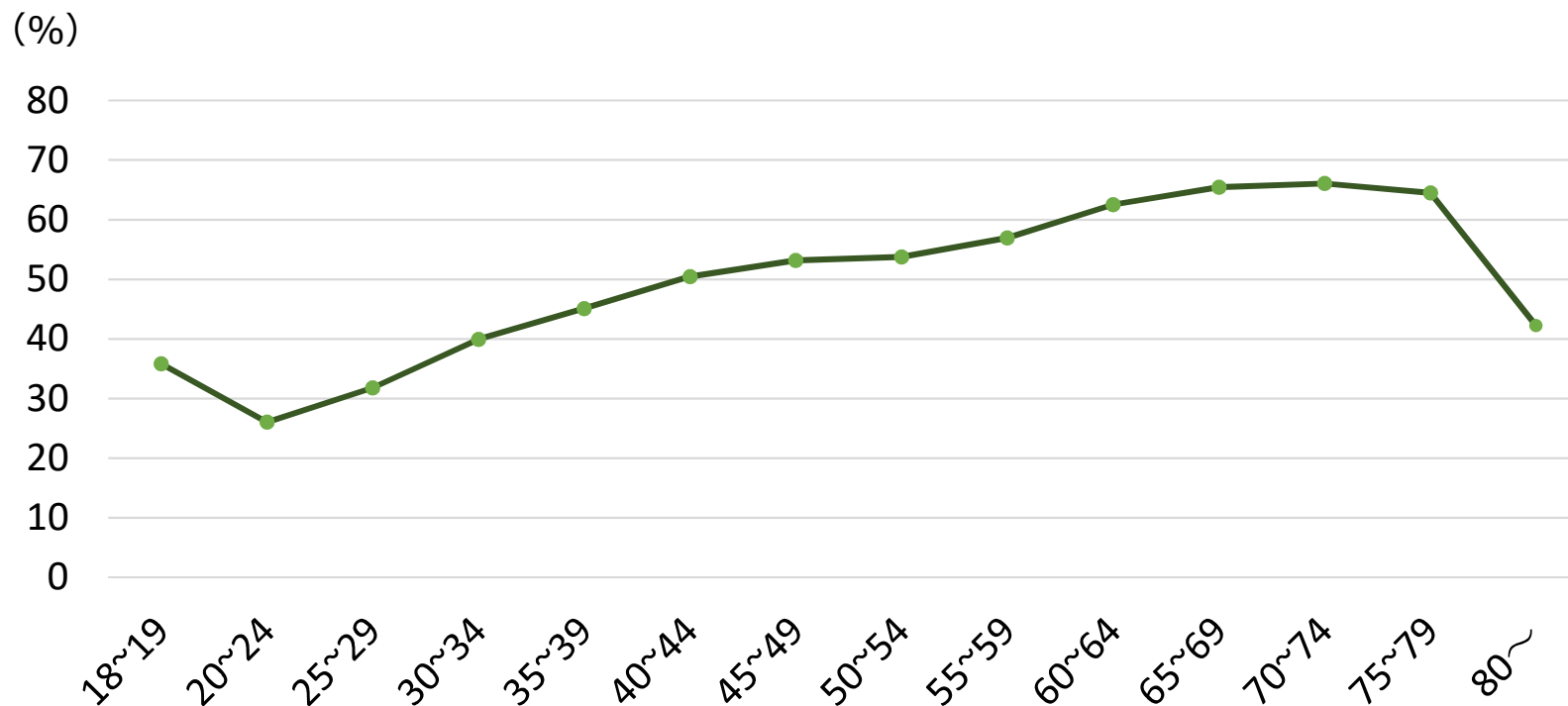
規制の特例措置

- 公職選挙の際、投票立会人や投票所における投票が必須とされている。この要件を緩和し、スマートフォン等から投票が行えるようにする。（公職選挙法）

2020年つくば市長・市議会議員選挙の年代別投票率（抽出調査）

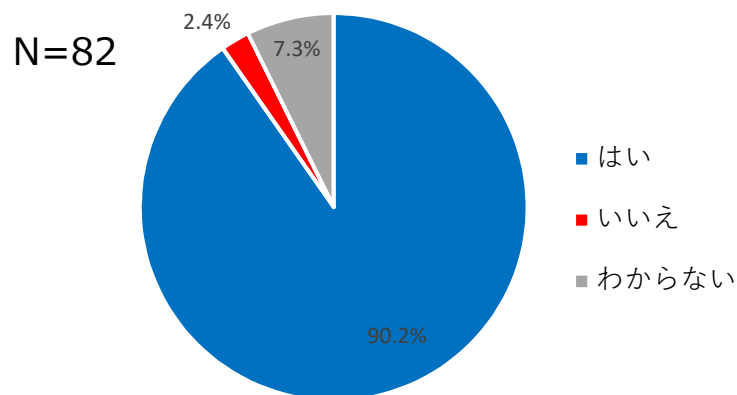
（参考）

有権者数：185,204人
投票者数：95,574人
投票率：51.60%

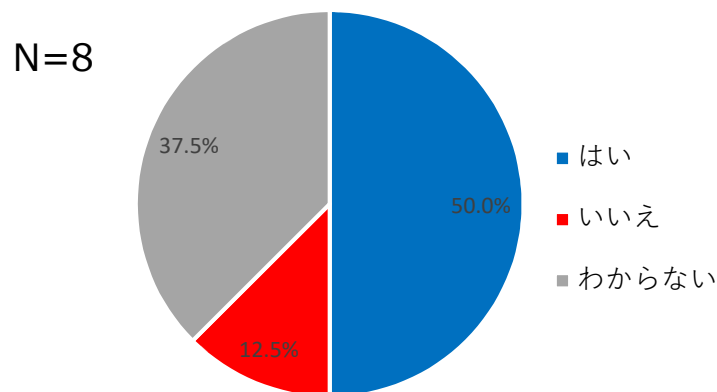


筑波大学理工学類・大学院システム情報工学研究群の学生を対象にしたアンケート

Q. 今後、投票所に行かなくても自宅や外出先などからスマートフォンやタブレットで投票（インターネット投票）できるようになったら利用したいと思いますか。



Q. （選挙権があったのに2020年のつくば市長・市議選で投票しなかった人に対する質問）仮に2020年の選挙でインターネット投票ができたとしたら投票したと思いますか。



Q. インターネット投票の仕組みを作るにあたって気になることや不安なことがあったら教えてください。

A.

- ・複数回投票
- ・個人情報漏洩
- ・本人確認が困難
- ・秘密投票が困難
- ・なりすまし投票
- ・誰がシステムを作るか
- ・デジタルデバイドの拡大
- ・ネットワークやサーバの不具合
- ・投票詐欺
- ・手軽すぎるが故の適当な投票の増加

実施期間：2021年3月19日～21日
実施方法：Webベース（Google Forms）
実施者：森 つくば市政策イノベーション部長
回答者数：82人